



練馬で生まれた新しい農園のカタチ

農業体験農園の魅力を語り合おう！

～練馬区農業体験農園園主会が発足15周年記念フォーラムを開催～

と き 6月8日(土) 午後2時～5時

と ころ 練馬区役所本庁舎地下 多目的会議室(練馬区豊玉北6-12-1)

8日、練馬区農業体験農園の園主で組織する「練馬区農業体験農園園主会」が、同園主会の発足15周年を記念し、記念フォーラムを開催した。

フォーラムでは、NPO法人全国農業体験農園協会理事長の加藤 義松 氏による基調講演「農業体験農園の農力と野菜力」が行われたほか、農業体験農園の利用者、学識経験者および農業体験農園の園主によるパネルディスカッションが行われ、



会場の様子

様々な視点から農業体験農園の魅力が語られた。会場には、農業体験農園の利用者のほか、区民や関係団体等の関係者など約120名が来場し、熱心に耳を傾けていた。

農業体験農園は、農業者(園主)の指導のもと、利用者が種まき・苗の植え付けから収穫までを体験することができる消費者参加型の農園で、練馬区内の農業者と練馬区が協力し、平成8年度に全国初となる農業体験農園が開設された。そして、園主間の情報交換と練馬区における農業体験農園のより一層の発展のため、練馬区農業体験農園園主会が発足。このたび、発足から15周年を迎えたことから記念フォーラムが開催された。

主催：練馬区農業体験農園園主会／後援：練馬区、東京あおば農業協同組合、全国農業体験農園協会

【練馬区農業体験農園】

農業体験農園は、自治体が管理・運営する区画貸しの農園と異なり、農業者が開設し、耕作の主導権を持って、経営・管理する消費者参加型の農園。

利用者は、入園料・野菜収穫代金を支払い、農業者(園主)の指導のもと、種まき・苗の植え付けから収穫までを体験することができる。自由に好きなものが作れるわけではないが、八百屋の店頭に並ぶものに負けないような農産物を年間20種類以上収穫することができる。

練馬区内の農業者と練馬区が協力し、平成8年度に全国初となる農業体験農園が開設され、現在、練馬区では16園が開設されているほか、「練馬方式」として全国に広がりを見せている。

【全国から注目される農業体験農園、その魅力とは…】

○農家による懇切な指導

減農薬科学肥料農法を主体とし、地域に受け継がれてきた品種と農法による栽培指導を農業者が行うとともに、苗や肥料、農具も農業者が用意することから、利用者は失敗も少なく手軽に野菜作りが楽しめる。

○都市住民と農業者の交流

都市農業存続のためには住民の理解と支援が不可欠だが、農業体験農園では農業者と利用者の相互交流が自然に図られるため、都市農業についての理解が深まっていく。他にも、利用者間の交流や、農業経営として成り立つ農園といった魅力がある。